

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	シティズンシップを考える (Exploring Global Citizenship in Rikkyo Service Learning)			新座(Niiza)
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	18歳成人時代に求められているシティズンシップ教育とは			
担当者名 (Instructor)	林 大介(HAYASHI DAISUKE)			
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)	
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)	
備考 (Notes)				

#### 授業の目標(Course Objectives)

- ・シティズンシップに求められていることを考える
- ・シティズンシップ教育や「子どもを市民にする」ことについて考え、課題の解決について議論する
- ・問題解決に向けた主体的な実践につなげる
- ・ Students will think about what is required of citizenship
- ・ Students will think about citizenship education and “making children citizens” and discuss solutions to the problems
- ・ The course will lead to students being able to solve problems independently in practice

#### 授業の内容(Course Contents)

2016年6月から「18歳選挙権」が始まり、2022年4月から「18歳成人」時代となる。18歳の高校3年生でも選挙で投票ができ、成人になるということは、18歳になるまでに「子どもを市民」「子どもをおとな」に育てていくことが重要となる。Covid-19含め、不確実な社会を歩んでいる今、主権者を育てるための教育＝シティズンシップ教育にはどのような取り組みがあり、効果や課題は何か。グループによる「シティズンシップ教育」をデザイン・企画し、実践につなげる。一方的な講義ではなく、学生同士のディスカッションやワークショップ、ゲストスピーカーとの対談などといった参加型で展開をする。学生自身の積極的かつ主体的な参加を期待している。

The “18-year-old election right” began in June 2016. Now that 18-year-old high school third graders can vote in elections, it will be important to bring up “children into citizens” and “children into adults” by the age of 18. Education to nurture sovereigns including mock elections = What kind of efforts are there in citizenship education, and what are the effects and issues? Design and plan “citizenship education” by the group and connect it to practice.

Rather than one-sided lectures, the course will consist of participatory activities such as discussions with students, workshops, and interviews with guest speakers. We expect students to actively participate based on their own initiative.

#### 授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. シティズンシップとは何か
3. シティズンシップの基礎
4. シティズンシップ教育の現状
5. シティズンシップ教育の課題
6. シティズンシップ教育のこれから
7. シティズンシップ教育をデザインする:基礎
8. シティズンシップ教育をデザインする:準備その1
9. シティズンシップ教育をデザインする:準備その2
10. シティズンシップ教育をデザインする:実践その1
11. シティズンシップ教育をデザインする:実践その2
12. シティズンシップ教育をデザインする:実践その3
13. シティズンシップ教育をデザインする:発展その1
14. シティズンシップ教育をデザインする:発展その2

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- ・予習教材等の指示があった際は事前に読んでくること
- ・新聞やテレビ、ネットなどを通して、日ごろから社会の動向を把握し理解に努めること
- ・グループワークのための準備等は、学生同士で連絡を取り合って行うこと(ネット等活用すること)
- ・任意参加での学外活動(これまでに、国会議事堂、議員会館、新聞社等を訪問見学)を行う予定(可能な範囲で実施)

#### 成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(45%) / 講義内での提出物(25%) / 講義への参加と発言(出席兼コメントペーパーを含む)(30%)  
講義において主体的な発言・参加を行う意思の無い学生は受講をお断りする

#### テキスト(Textbooks)

1. 林大介、2016、『「18歳選挙権」で社会はどう変わるか』、集英社 (ISBN:978-4-0872-0838-2)  
電子書籍での購入も可

#### 参考文献(Readings)

1. 唐木 清志 他監修、日本シティズンシップ教育フォーラム 編、2015、『シティズンシップ教育で創る学校教育』、東洋館出版 (ISBN:9784491031071)  
2. 逸見・原田・藤枝編著 立教大学 RSL センター編集、2017、『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シティズンシップを耕す教育—』、北樹出版 (ISBN:9784779305306)

#### その他(HP等)(Others(e.g.HP))

- ・一方的な講義ではなく、学生同士のディスカッションやワークショップ、ゲストスピーカーとの対談などといった参加型で展開をする
- ・グループワークを適宜実施するため、そのための事前準備等が必須となる
- ・学生自身の積極的かつ主体的な参加を期待している

※この科目は、立教サービスラーニング(RSL)科目群のひとつである

#### 注意事項(Notice)

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。